

指道等系統力復雜テ困ル 例ニハ 産

報、労働ノ組織カアリ 又一方 農業ニ

テハ 農民義勇隊ヲ 結成 指道中

テアリ 義勇隊縣本部トシテモ 食糧

増産部ノ如キハ 此ノ方面ニ不株ヲトラレテ

困ソテナル形ナルカ 又軍需産業部

ニ於テモ 同様に事が主産報トノ関係ニ

於テ云ハル

(七) 隊出勤ト労働調整ニ付テは 縣勤員課
ト面倒ナ関係カアルノテ 目下両者運絡
協議中ナル

(八) 軍需監督官 監理官中ニハ 無理解ナ
モノガアソテ困ソテナル 之等ノ工場方

面テハ、戦斗隊以外ニハ出勤サセヌ等

ト云フテアル

(二) 一般的ニ趣旨、徹底ラズイテアル莫モアル
カ、熱意薄ク、指導テ云月成ハ相当困難
テアル

三、市町村隊幹部方面

(一) 一般ニ無理解テ困ル、口實ヲ設ケテ出
勤ヲ免レシトスルモノカ相当アル

(二) 現下農村、悩ミハ勞力不足テアル、農民ヲ
出勤サセル場合ハ慎重ナ考慮ヲ払ツテ
責イタイ

三、一般部民方面

機関ノ統一ニ元化並ニ指導ノ一貫性ヲ要ス
望ミワ、アリ

三 栃木縣

(1) 國民義勇隊ト労務報國會トノ關係

事業場ニ常備セラレタル大工、電職等勞
報會員ヲ以テ市町村義勇隊長ノ下

ニ勞報隊ナル職域隊ヲ結成セルモ隊員

トシテ出勤スルニトテテントナク隊組織トシ

テハ一志各隊長ノ下ニアルモ實際ハ出勤

ハ警察署長ノ配置指揮ノ下ニ運用セラ

レツ、アル実状ナリ

(2) 義勇隊自動車隊陸上小運搬隊

警察部長ヲ隊長トセル縣單位、職域
隊ヲ結成セルモ形式上ハ義勇隊縣本
部、指揮下ニ活動運營スル筈ナルモ
実状ハ縣本部ヲ離レ縣知事ノ直轄
ナル觀アリ

(ハ) 農民隊トシ關係

農民隊ノ設置ニ関シ農商省等ヨリ總
慮アリタルモ地方部民ハ殆ント農民
ナル關係上國民義勇隊運動ト竟
合スルニ付農民義勇隊結成ノ要ナ
シ

要スルニ産業報國會 労務報國會 農

民隊等ト國民義勇隊トノ運用上ニ於テ
地方現地ニ於テハ相當困難ナル向題ヲ予
想セラレ之ヲ現状ノ俟ニ推移センカ國
民義勇隊運動ノ指揮系統ノ混亂ヲ来タ
サシメ運動自体ヲ冷却セシムル虞ナシ
トセサルトナシ之カ調整ニ関シ中央ニ
於ケル強カナル施策ヲ要望シツ、アル
現況ナリ

大日本帝國政府

縣名
北海道
青森
岩手
宮城
秋田
山形
福島
茨城
栃木

栗林
佐々木
八角
南條
藤肥
西方
山田
內田
松村

德一
嘉太郎
三郎
秀夫
良治
利馬
六郎
信也
光三

貴族院議員
各
縣
長

一名
九名
一〇名

大日本政治

支

部

長

一九名

一七二四現在

縣名
群馬
埼玉
千葉
東京
神奈川
山梨
新潟
富山
石川

木暮
出井
齋藤
前田
小泉
井出
增田
佐藤
武谷

武太夫
兵吉
米藏
又次郎
鐘藏
藤一
助九郎
善太郎

衆議院議員
未
定

五人
二名
五縣

所屬

大日本帝國政府

岡山	島根	鳥取	和歌山	奈良	兵庫	大阪	京都	三重	滋賀	愛知	靜岡	岐阜	長野	福井
星島	堀	由	吉		勝	津	村		野		太	平	小	天
備兵衛	藤十郎	谷	友之進		田	田	上		田		田	野	平	谷
(各界)	(各界)	(衆)	(貴)	(未定)	銀次郎	信吾	國吉	(未定)	六左衛門	(未定)	正孝	增吉	權一	直次郎
					(各界)	(各界)	(衆)		(貴)		(衆)	(各界)	(衆)	(軍)

沖繩	鹿兒島	宮崎	大分	熊本	長崎	佐賀	福岡	高知	愛媛	香川	德島	山口	廣島
	寺田	會木	嵐生	古莊	橋本	高取	安川	大石	河上		田村	内田	宮澤
	市正	重貴	益良	健次郎	辰二郎		第五郎	大	哲太		秀吉	重成	裕
(未定)	(衆)	(衆)	(貴)	(貴)	(貴)	(各界)	(各界)	(衆)	(衆)	(未定)	(衆)	(貴)	(衆)



昭和三十年七月

第十七議會會後に於ける代議士其の他の言動

内務省警保局保安課

一 概

諾

目

次

二 言

動

- (1) 議會關係
- (2) 戰局關係

一、概説

第八次議會後に於ける代議士其の他の言動

沖繩決戦の重大段階に際會し敵の頻繁なる空襲下、去る六月九日開會日せらるる第八十七臨時議會は政府提出の戦時緊急措置法案を始め本土決戦の態勢を急速強化せんとする六法律案を議了し、同十三日閉院式舉行せられ終了したるが、本議會に出席したる議員其の他の言動を綜合するに、一般に於ては今次議會は首相を中心とする縦横の連絡に欽くるところありし爲稀に見る低調なるものありたりとし、特に反政府的色彩を濃厚に示せる護国同志會所屬の各議員

は鈴木首相の議會日に於ける失言問題を捉へ一着
に之を諦難し、一部に於ては政府の弱体無能は
蔽ふべくもなく重大なる現戦局を乗り切る力なし
と極論し、延いては政変を予見するが如き言動を
なしてあり。然ルども議員中には政府側の漫説
、答米等の言葉尻を捕へて之を飽追追及する等
従に曰政党的議員根性を發揮して貴重なる時
間を空費せしめ、會期を延長せしむるに至らしむる
は現下議員の心構に缺くるところありとせり。
又戦局に對しては一部に必勝の信念を堅持する向
ありし一般に悲觀說散見せられ、然し之等中には陸海
兩軍の不一致と作戰の失敗とに依り最後の俊階に

追込まれたる現状に於て依然として無爲無事ハにし此
の徑の推移を辿るに於ては、最早残されたる途は無條
件降伏が一億玉砕かの二途を餘すのみとの敗戦的言動
あるは注意を要すべく、且之等の言動を通じ漸次和平
、反戦、反軍的傾向あるを窺知せらるゝは嚴戒を要す
べきものあり。
以下之等に用する特異言動の主なるものを擧ぐれば左
の如し。

二 特異言動

(1) 議會関係

○ 日政代議士

安田桑次(岐阜)

今度の議會程政府と議會との連絡が欽けしめたるは曾て

ない事であつた。戦時緊急措置法で二日の期間
の延長を奏請するに至つたが、之は議員側にも
悪い所があつたが政府側の不手際も否定出来ぬ。

○日政代議士(日民政) 山本兼吉(茨城)

鈴木内閣が弱体内閣であることは異論はない。併し
首相其の人は政治に暗い以至誠一貫奉仕してゐる人な
らぬ。我々として決して責むべきでない。唯幕僚に人物
がない。つまり副総理的人物が無いのである。併し一方護
国の連中が政府の施策の一端や、言葉尻を捕へて
攻撃して居たが之等の信念も疑はれる。

○日政代議士(日民政) 佐藤芳男(新潟)

今次議會の結果は凡そ期待に程遠いものがあつた事

を痛感する。卒直に言ふならば、鈴木首相の施政方針論説は、實に成つておらなかつた。全山六字の羅列に過ぎなかつた。第一に迫力なく、第二には不必要なことを「クドクド」と述べてゐる事である。果せるかな、矢言問題を惹起し、之が影響日し、會期を延ばせばならなくなつたのである。私は従に首相を攻撃するものでなく、寧ろ組閣に當り、「國民は私の屍を築り、越えて進め」と大號令をした悲壯なる決意に對しては、敬意を表してゐる。多回の不手際等も、致し責むるには及ばぬと思ふ。併し各閣僚及内閣三長は、官が誰一人として首相の危急に一體だとしなかつた態度は、實に堪しからぬ。

○日政代議士(曰民政) 伊藤東一郎(岐阜)
皇國興廢の岐路に立つ議會日としては、實に話も出来ぬ

程遺憾なものであつた。戦時緊急措置法案の審議を繞り首相を中心とする鉄橋の連絡が意外に薄弱であることが暴露した。今後の問題として大事件なのは国民の戦意を昂揚せしむること、一方食糧に不安を與へぬことであるが、此の内閣では真目だと考へた。

○日政代議士(日民政) 船渡佐輔(改草)

多議會程惨めな議會は今迄に無い。此の内閣では到底此の戦局は切抜けられないとの感を深くした。如何に人格高潔であり、

陛下に忠であつても、只天小犬では總理は勤まらぬ。自分是最早鈴木内閣には何等の期待も信頼も寄せられない。従つて此の戦争には極めて不安を持つものである。

○日政代議士(日民政) 清 寛(改草)

今度の議會は首相の耳が遠いのか、或は連絡不良か
であらうのか、全くなうて居うなかつた。日取——此の最中
を切抜ける内閣ではない事は、はつきりした。一部には
鈴木如き人格者が何故内閣を引受けたかと云つて居り、
結局重臣が悪いと云ふ議論もある。曩の東條を鬼や角
云ふけれどもあれは迫力のある者が揃はぬと要目である。
要するに今日迄余りにも軍人を頼りにし過ぎた爲に今日
の如き事態になつたのであつて、之からの内閣は陸海両大
臣以外は全部本當の政治家派にやうせざるべきである。

○日政代議士

原口純允(鹿島)

議會を通じて感じた事は、現内閣は眞の決戦内閣ではな
い。今度の議會に於ける演説、答へを聞いて悲心を
感ぜざるを得なかつた。結局鈴木内閣は沖繩戦局の歸

趨如何に依つては更迭して貰はねばならぬ。斯る内閣を
奏請した重臣の責任は極めて大きいと云はねばならぬ。

○日政代議士(日民政) 川崎 克(三重)

今議會方面に於ても、サイパンの東條、硫黄島の小磯、
と同様、神繩島の鈴木として瓦解せざるを得ぬと云ふ
空氣が濃厚なやあるが、現首相には陸軍部内に多少
面白からざる感情を抱藏してゐる様に思はれる。之は閣僚
の廣觸を見ても海軍色を以て覆はれてゐる事實から
らしても陸軍側の不満があるのではなからうかと思はれる。

○日政代議士(日民政) 小山 松寿(愛知)

議會後重臣の間に二つの意見が擡頭してゐるが、
一方の方は近衛さんが中心になつての勤まらしいが確に

和平的なものだ。

○ 翌日代議士(白民政) 森田正義(栃木)

今議會を通じ政府は非常な弱体振りを見せて氣の毒であつたが、國家的見地から考へると議會を開いて言はかつたと思ふ。首相の施政演説が極めて和平的だと云ふ莫大の悶題になつた云々。

○ 翌日代議士

中越義幸(高知)

首相の施政演説と應答には失望した。演説中「天祐を保有し」の御言葉には世子君間に議論があるとか、我が國の天皇は吾界の元首中第一の平和を愛好せらるゝ方であるとか、又平和の太平洋下戦ふものは何れも天罰を受けざる等の言辞あり、議會中物議を醸すに至り結局速記録を取消し事済となつた。又議會の質問に對

し耳が聞えぬとの理由で官巨匠や岡田厚相と協議の上でなければ答へず出来ない。之で戦争が出来るかと思つた。

○翼北代議士

高野孫左衛門(山梨)

今度の議會は非常に緊張した愛國氣の下に開かれたるにも拘らず結果は全く大いに台致しないものがあつた。政府は斯くとも議會日を召集するに當つては相當の準備があるべきに拘らず、其の準備は更に出来て居らず、悪意に解^解と助外水と云ふが、折外水と云ふが、政府の政治性に對する信頼感に相當減殺せらるゝ、今後の成行は大いに注目すべきものがある。

○翼北代議士

長沼權一(新潟)

今度の議會は全く期待に反した非當中にダラケ切つた空氣であつた。眞に愛國的精神問や、異議に直結した

眞面目な質問は毛頭無かつたと云つてよい。まづ「議論
の爲の議論に終始し、一体こんな事で戦争に勝つる
だらうかと慨歎に堪へなかつた。

○護国代議士

高田大輔（新潟）

首相の施政演説を聞いた議員の大部分は「鈴木サンハ
戦争に負ケル事ヲ覺悟シラケルガ美レデハ困ル」と思つた。
鈴木さんは就任の初めから死に付て強く考へて居られたが、今
では「俺ハ死ネバ良イダ、俺ハ此ノ戦争ハ勝目ガ無イ、
負ケテモ仕方が無イカラ徹底的ニ勝カハフ、併シ米英ニハドウシ
テモ勝目ガ無イダ」と云ふ實質に情けなゝ意見を以て居る
様だ。

○護国代議士

吉川 亮夫（長野）

今度の議會に於て政府は準備が無く首相の失言問題もあつて結論的に言へば桂首相は確定的だ。同志會として斯ふした無責任の内閣は之を奏請した重臣の責任と考へてゐる。

○護国代議士

中原謹司(長野)

今度の臨時議會日に於て議員の兄は現内閣では此の戦争に絶對勝ち抜くことは出来ないと云ふ感じを持つた事と思ふ。鈴木首相の施政演説、失言問題の答へより推するに信念の無い事が窺はれる。今度の議會日から押して此の内閣は一日も早く更つて世間はねば困る。

○元駐米大使貴族院議員

出淵勝次

即ち中央に於ては鈴木内閣更迭を口にする者がポツポツ

多くなつて来たと言はれるが、之は鈴木内閣が沖繩内閣
と云はる、程 沖繩戦局に因連があること、又過般
の臨時議會で締に見る大味増であつた事に基因
する様だ。實際臨時議會は余りに不体裁で衆議
院のみならず、貴族院でも落膽してゐる。

○大阪毎日主幹

下田将美

鈴木内閣が第一と議會以来國民の信望を薄くした事
は明白だが、爾來政変説は濃度を増して来し居り、或
は最近更迭が改造か何れにしても具体化するだらう。此の頃
は單なる噂だけで無く現内閣の有力な後援者たる平沼さ
んの氣持が變つてゐること、又數日前 迫水官長が首相に進
退伺を出した事に依つても覗い知ろ事が出来るが、迫水の評

判は非常中に悪い。だから之を感じて首相に申出でたものと
思ふが、首相は取上げなかつたやうだ。敵が本土に上陸すると
云ふ多日政変でもあるまいと思ふが、實に困つた事だ。

○元代議士(糸渡士)

長谷川、石川

勸局打開出来に付ては現内閣は之以上施す術なく最
早打つべき事は既に打盡した形で、現内閣が政權を握
つてゐる以上戦争の様相が深刻となり遂には日本は敗けが
ある。現内閣は今後重大戦争に對し如何に処する
か、注目を要するが先づ總辭職、無條件降伏
、日米直接和平の三つの途以外は無い云々。

(2) 戦局関係

○無所属代議士(漫友)

鳩山一郎(東京)

今迄日本の作戦は皆考へが違つて居るにや。海軍は海軍、陸軍は陸軍、其の陸軍も亦二派も三派もあつたんだ。其れが失敗に失敗を重ねて最近目が鼻のかけた時には既に名詰りになつて仕舞つても降伏が至りかと思ふ迄来て仕舞つたんだ。一体軍人に政治を任せ置くのは危険だ。調子のよい時はよいが、戦争指導者はどうして陛下に御託を申上げる氣だらう。

○日政代議士(白民政) 佐久間 斐(栃木)

沖繩は時局的問題となつた。海軍大臣の言はれは實際殲滅は不可能であるかの感を受けた。現在の航空機有耗率が云へば補給が續くかどうか疑問で今後一戦局打開は容易ならぬものがある。

○日政代議士

三木 英吉 郎(徳島)

此の戦は勝つと云ふことは困難だ、如何にして敵の攻撃を
持ちこたへ敵をして戦争を止めさせるか、問題である。吾
々は最後迄頑張るの一点より外ない。

○日政代議士(日民政) 川崎 亮(三重)

「勝つ勝つ」とは云の乍ら勝ち得る自尊は何を根柢と
してゐるか。此心なく勝算の根柢となるべきものは現在の
多政府も持つて居らぬ。唯敵の爲す俥に任せて置いて
敵側の戦の疲れし、此の辺に講和したうどうだうか、と講
和条件を持ち出して来るのを唯一の望みとして持久戦
態勢を整へつゝ、あるに過ぎぬであつて、日本から攻勢
に出づることは出来ないのである。畢竟に心細い、次第であ
るが現局に於ては致し方が無い。

○ 羽 異 代 議 士

長 忍 權 (新 鴻)

軍部大臣の演説に依ると本土上陸して来た敵の徹底的殲滅に對して絶対自信があるとのことであるが、敵の膨大な物量に對する我方の補給如何に付ては自信があるかどうか。此は心細い次第であつた。

○ 石 外 務 次 長

大 橋 忠 一

若し現在和平工作が成立したとしても、大抵は無條件降伏以外に無く、此外迄到達した戦局では如何ともなし得ぬ。最後の一人迄退張る以外途は無い。

○ 貴 族 院 議 員

渡 辺 覺 造

戦局の事だが、議會内では沖縄戦争の様子は話

419
もせず、又我々として聴き、たしもない。暴氣の悪い事は判り切つて居る。聴けば聴く程嫌になつて仕舞ふ。政府は上陸せば申す水際で撃退するとか申し居るが、国民が政府や軍の申すことを信頼して今後ついて来るか。国民がついて来ぬ政府、政況は取目だ。